

12  
月号

第442号

# いっしん

令和3年(2021年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師神教

信心とは  
いかなる事を  
いうならむ  
初め忘れぬ  
心ならずや

教祖様138年 教団独立121年 小倉教会布教136年 甘木親教会布教117年  
安武松太郎大人70年 加治木教会布教70年…5月30日ご祭典が奉仕されました。



少年少女会「野外調理」 11月6日

## 少年少女会 野外調理

十一月六日(土)紅葉が始まりかけた霧島山麓の「仙寿の里温泉」にて、久し振りに、少年少女例会が開かれ「野外調理」を体験しました。

この日は朝から小雨模様で、終日小雨が続きました。その中にもタープやブルーシートを張り雨をよけながら、大鍋カレーを炊き、ダッチオーブンで石焼芋をし、飯盒でご飯を炊きました。

開会の御祈念、開会儀礼のあと、「天地のお恵みの食材を大切にしながら、人間だけが使える火をお礼を申して使いましょう」とのお話が手短かにあり始まりました。

雨は小降りだったので、意外に薪は燃え、勢い良く鍋のお湯が沸き、煮炊きもできました・・・。

途中、小雨が続くために「仙寿の里温泉」の瀬尾さんご夫婦が部屋を使うように親切に提供してくださり大変助かりました。(5ページに続く)

御大祭奉迎信行期間に

『心神』を拝読させていただいて

十一月十五日～二十六日

加治木教会では、生神金光大神御大祭奉迎の信行期間を設け、朝御祈念後に『心神 先代の信心を求めて』  
(安武文雄大人二十五年 祭令和二年十一月発行)  
 を拝読させていただきました。研修をさせていただきました。

その中で、改めて感じさせていただいたことですが、だんだんと信心を進めて行くうちに、おかげを蒙らせていただいたことや、お話しを幾度も聴かせていただいて、尊い親神様のお恵みやお働きと、教祖様のご苦労と、修行が尊く有り難いということがわかって行きます。しかし、信心の稽古を進めて行く上で要(かなめ)とも言えるところがあります。

安武文雄大人は、信徒部研修会の時に「私の遺言と申って・・・」とお話しされた時にもこの内容をお伝えになっておられました。

御用に当たらせていただくだけでなく、信心の稽古を進めさせていただく上に、とても大切に心に抱(いだ

いておかなければならない、信心の要諦と言えるところでありますので、転載させていただきました。



・・・先代は更に、

「自分をご神縁させていただいて、小倉の教会にお参りをさせていただきたくようになって、だんだんお参りをさしさせていただいておると、信者さん方がお広前のお掃除をしておられるのを見る。その時に自分は、『ああしてお広前のお掃除をおかけいただいてあるが、自分にもああい御用はできないものだろうか』と本当にうらやましかった。表のお便所の雑巾一つでもよいが、自分に持たせていただくことはできんものじゃろうかと、どれほど思っただかしれん。それにおま

えは、神様にお供え物を奉るその三方を取り扱わしていただくというのに、どういう気持ちできたか」と、こう言われた。

これは、まことに相済まんことですけれども、「ありがたい、もったいない」では行っておりません。たまたまほうきが無くして手ぶらになったから、何かなろうかと思ひ、年とった先代が三方を下げておるから、それではまあ一つ手伝うてやろうというくらいのことと、とことこ行つたわけです。ところが、そう言われれば、本当にそのとおりですね。まったく一言もないわけです。ありがたい、もったいない、畏れ多い、そういう心をもとに持つての御用でなければ本当の御用にはならん。ところが、私も油断してしまいますと、どこかに自分がする、してやるといふような気持ちがないとは限らんわけですね。私は、そのところを覚えてもらったことが、本当におかけをいただいたなあと思うわけです。自分がする、自分がしてやるというのは、これはまったく信心、まことではないということをつくづく思わ

してもらわねえです。そういう御用に使うていただくということ、そのことが本当にありがたい、もったいない、自分のような者が、ということより外にないと思うわけです。ここがぼやけて来たら、私どもの信心そのものがぼやけてしまうのではないかと思えます。〔心神〕九十一  
〔九十三ページ〕

(昭和57年5月20日第一回教会長信行会議話より)

人吉教会

生神金光大神御大祭に併せて

令和二年七月豪雨復旧感謝祭

仕えられる

十月二十四日(日)人吉教会では、生神金光大神御大祭に併せて、令和二年七月豪雨復旧感謝祭が仕えられました。

昨年七月四日に発生した「令和二年七月豪雨」で、床上浸水(お広前で床上1m20cmほど)してより、教会機能はストップしてしまっていました。

以後、全国の教会をはじめ、鹿児島地方連合会の各教会や、加治木教会からも、支援物資などが集められ

人吉教会と人吉西教会へと運び込まれ、また復興支援作業も進められました。

昨年未までには、教職舎のひと部屋を仮広前として、ある程度の御用は再開しておられました。丸一年が経過して、多くの皆さんの真心のこもるお祈りとご尽力があつて、ようやく会堂広前周辺の復旧工事が終わることができました。



そうして、お広前の機能が復旧し、お広前でご祭典を仕えることができようになるように、このたび生神金光

大神御大祭に併せて令和二年七月豪雨復旧感謝祭が仕えられました。

ご祭主を仕えられた教会長の安武光太郎先生は、祭詞奏上中「令和二年七月豪雨」についての文章に至ると声を詰まらせられ、人知れぬご苦労や大変な思いがどれほどであったかと、容易に想像させられました。

人吉教会のご家族・信奉者をはじめ、隣接教会の教師・信奉者、長い間復旧工事に携わられた皆さんも参拝されて、一年半振りに、きれいに復旧したお広前で麗しくご祭典が仕えられました。

教会の教職舎の窓から眼前に広がる球磨川には、近頃営業を再開した川下りの船が、お客さんに乗せて乗船場付近だけの見学遊覧をしています。川下りは、下る途中の橋や鉄橋などの架け替え工事中であり、まだまだのようです。



少年少女会 11月6日  
**野外調理**

なんとか大鍋にカレーライスが、飯盒にご飯が、ダッチオーブンに焼き芋ができあがりました。

お昼ご飯の時間は、経営者の瀬尾さんご夫婦のご厚意で、設営しているところに一番近い部屋と雨よけのある部屋の前の通路を使わせていただきました。

子供達は雨に濡れる心配もなく、部屋でゆっくりと安心して食事ができました。

また、今回は保護者の参加者が多く、小雨が降る中にも段取りよく進行することができました。

\*

今回、子供達の参加者は最上級生が小学校二年生で、他は未就学児でした。

そのため野外で薪を焚いて火を燃やすのは初めてという子が多く、みんな驚いて感動しながら薪をくべては、うちわで一生懸命あおいでいました。

日常生活では、オール電化の家が多く、山間の自然の中で薪を焚き、さらに小雨が降る中での少しワイルドな野外調理実習でしたが、おいしいカレーや焼き芋ができ上り、とても楽しかったようです。

仙寿の里温泉は、瀬尾田鶴子さんが十七年にわたり経営をされて、三年前に亡くなられてからは息子さんの郁雄さんご夫婦が東京から帰ってきて経営に当たられてあります。

教会行事では、いつも大変お世話になり有り難いことです。

少年少女会の「野外調理」を実施する場合、多くの一般の施設では火を燃やすことを許可してくれませんが、しかし「仙寿の里温泉」では特別に、十分気を付けながら火を燃やすことをお許しいただき、大変助かっていきます。



「仙寿の里温泉」入口



最初は、焚いている火に雨がかり、火が消えないかと心配しましたがいったん燃え出すと、ぜんぜん大丈夫でしたね。



鍋ではカレー、ダッチオーブンでは石焼き芋



カレーがおいしくできあがりました。



みんなでいただくカレーはとくべつです！



みんなそろって記念写真！



御本部

### 立教記念祭と教主就退任式



十一月十五日、本部広前祭場において立教記念祭並びに教主就退任式が麗しく仕えられ、教主就退任式では、前教主金光様ご夫妻、現教主金光様ご夫妻がご臨席下さり、教務総長挨拶と、全信奉者を代表して教者の柱眞津子親先生（小倉教会長）がお礼の言葉を申し上げられました。

加治木教会では、十一月十九日の共励会で、その後もようを教会お広前で、参拝者一同で、本部ホームページのビデオ映像にて拝ませてくださいました。

### 輔教再任にあたって

（上田和也）

「輔教」には、今回で二回目の更新となり、お陰様で三期目（一期四年）を迎えることができそうです。

前回までは、なかなか月例祭や御大祭、親教会御大祭、御本部御大祭の参拝に、あまりおかげ頂くことができないことがあり、親先生、また皆様に、ご迷惑をかけてしまったことをしきりに反省しております。

今回三期目の規定の年数を終えると、教会長（親先生）の許可があつて、金光教学院を卒業などできると教師にもなることができるそうです。しかし、親先生からは「実際は、まだまだ信心の意味合いが分かっていないし、輔教としての責任が果たせてなく、信心の勉強についても『御取次』という意味合いがわかってないので、まだまだこれから輔教集会などでシッカリ信心の勉強をして、生活や仕事の上のことについて少しずつ御取次を頂く稽古をして、まず加治木教会の周囲の信者さんから信心



の仕方をひとつひとつ習って行かないとね・・・とみ教えを頂いています。

来年からはわすかずつでも、お繰り合わせを頂いて、体調をしっかり整えて、月例祭参拝や、御大祭前の御用もできるように、気持ちを入れ替えて、出直したいと思っています。



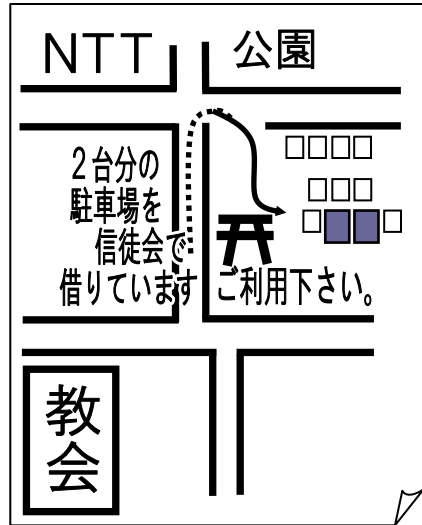
「金光教教規」より、輔教（意義）  
第百六十八条 輔教は、本教の信心を伝えるため、進んで教会活動を担うとともに、教団活動に参画する。

# あしあと

加治木教会行事記録

11月

- 1 (月) ●報徳月例祭 10時半
- 6 (土) 少年少女会 野外調理
- 9 (火) 清掃御用 10時
- 10 (水) ●月例祭(主神祭) 10時半
- 併せて 立教記念祭・新穀感謝祭
- 18 (木) 清掃御用 10時
- 19 (金) ●月例祭(天徳祭) 共励会 13時半
- 21 (日) 多良木教会85年記念祭
- 23 (祝) 宮之城教会60年記念祭
- 25 (木) 連合会執行部会(聖霊祭) 10時半
- 27 (土) 御用奉仕(清掃)
- 28 (日) ●加治木教会 御大祭 11時
- 30 (火) 清掃御用 10時



## 感 詠



教会長

さまざまに咲きだす菊も  
 大いなる天地の働きありて育ちぬ  
 礼ぶこと僅かなりけり  
 信心の至らざること心刻みて

いかにしてよりよきことにならむかと  
 少年少女の会を練りなむ

野外にて少年少女の育成を  
 願いて炊爨せりと調え

雨の中野外調理を進め行き  
 皆の持ちたる祈りで支え

このくらい冷えれば紅葉色づくか  
 思いつ朝の祈り捧ぐる

その道を極め行く人違いある  
 数々の技驚きおりぬ

## ご霊神様のおまじ

十二月

- 吉屋正憲之霊神(2日)平成11年
- 本中野キン之霊神(7日)昭和10年
- 大山キク之霊神(7日)平成7年
- 小屋敷シゲ之霊神(7日)平成8年
- 柳園市次郎之霊神(8日)昭和25年
- 本中野重盛之霊神(8日)昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常之霊神(18日)平成2年
- 村上忠夫之霊神(20日)昭和48年
- 大山スエケサ之霊神(24日)昭和51年
- 大山きよ子之霊神(28日)昭和43年
- 吉屋キミ之霊神(30日)平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖のご霊神様の、現世・幽界(かくりよ)でのお働き  
 あつての今日の私たちであります。  
 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申  
 上げましょう。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉  
 串の奉てんを準備しています。」

十二月三日(金)

甘木親教会

生神金光大神御大祭

参拝

※三蜜(密閉・密集・密接)に心がけ、マスクの着用、手指消毒、自宅での検温をさせていただきます。

十二月三十日(木)十三時半より

加治木教会

越年祭奉仕

越年祭、御礼・お願いの記入用紙をご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝)正午より

加治木教会

元日祭奉仕

「祭典・教話後、福引。」

教会行事

12月

- 1 (水) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (金) ●甘木親教会御大祭
- 8 (水) 連布教協議会(加治木) 10時半
- 9 (木) 清掃御用 10時
- 10 (金) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 12 (日) 御本部布教功労者報徳祭(参拝は未定) 金光鑑太郎君三十年祭
- 21 (火) 清掃御用 10時
- 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
- 29 (水) 清掃御用 10時
- 30 (木) ●越年祭 13時半
- ◆1月2日(日) 光風館予約日 10時

令和四年

1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 2 (日) ※光風館予約日 10時
- 3 (月) 甘木親教会年頭参拝
- 5 (水) ★少年少女会「鏡開き」10時半
- 9 (日) 清掃御用 10時
- 10 (祝) ●月例祭(生神金光大神様) 10時半
- 併せて 成人感謝祭
- 21 (金) 清掃御用 10時
- 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (日) 連合会定期総会(鹿兒島教会にて) 10時
- 31 (月) 清掃御用 10時
- 《未定行事》青年会・若婦人会



「改まりの願い」(加治木教会)

自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、

親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき

「安心いただき

「信用いただく信心に、

おかげを信じる信心から

親神様・「神慮を信じる信心に、

改まらせていただく。